

2015 度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 14 日作成)

小委員会名	企画戦略小委員会	主 査 名：有賀 隆 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：有賀 隆 主 査 名：有賀 隆
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画・まちづくり分野における新規研究テーマの戦略的な開拓、社会ニーズに应答する学術活動の支援と活性化、および関連委員会等との連携研究の企画・支援 ・日本建築学会都市計画委員会および関連委員会における研究成果の体系化、専門実務分野・地域社会・海外との情報交流与研究成果の公開、および出版・講習会開催を通じた普及活動 ・都市計画委員会ホームページの運営・管理と委員会活動・成果の情報公開と広報活動、および建築学会支部都市計画委員会、まちづくり建築支援会議ほか関連諸団体との情報共有システムの開発 ・都市計画委員会所属の各小委員会およびワーキンググループにおける研究活動成果の体系化、および、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催を通じた活動の普及促進 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 有賀 隆 (早稲田大学) / 岡本肇 (中部大学) / 姥浦道生 (東北大学) / 三島伸雄 (佐賀大学) / 饗庭伸 (首都大学東京) / 栗山尚子 (神戸大学) / 川崎興太 (福島大学：環境都市計画 WG 主査) / 市古太郎 (首都大学東京：都市防災 WG 主査) / 加藤孝明 (東日本大震災報告書編集 WG 主査)	
設置 WG (WG 名：目的)	環境都市計画 WG： 都市防災 WG： 東日本大震災報告書編集 WG：東日本大震災報告書の編集を行う 研究協議会企画運営 WG：大会・研究協議会の企画・運営を行う	
2015 年度予算	280,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

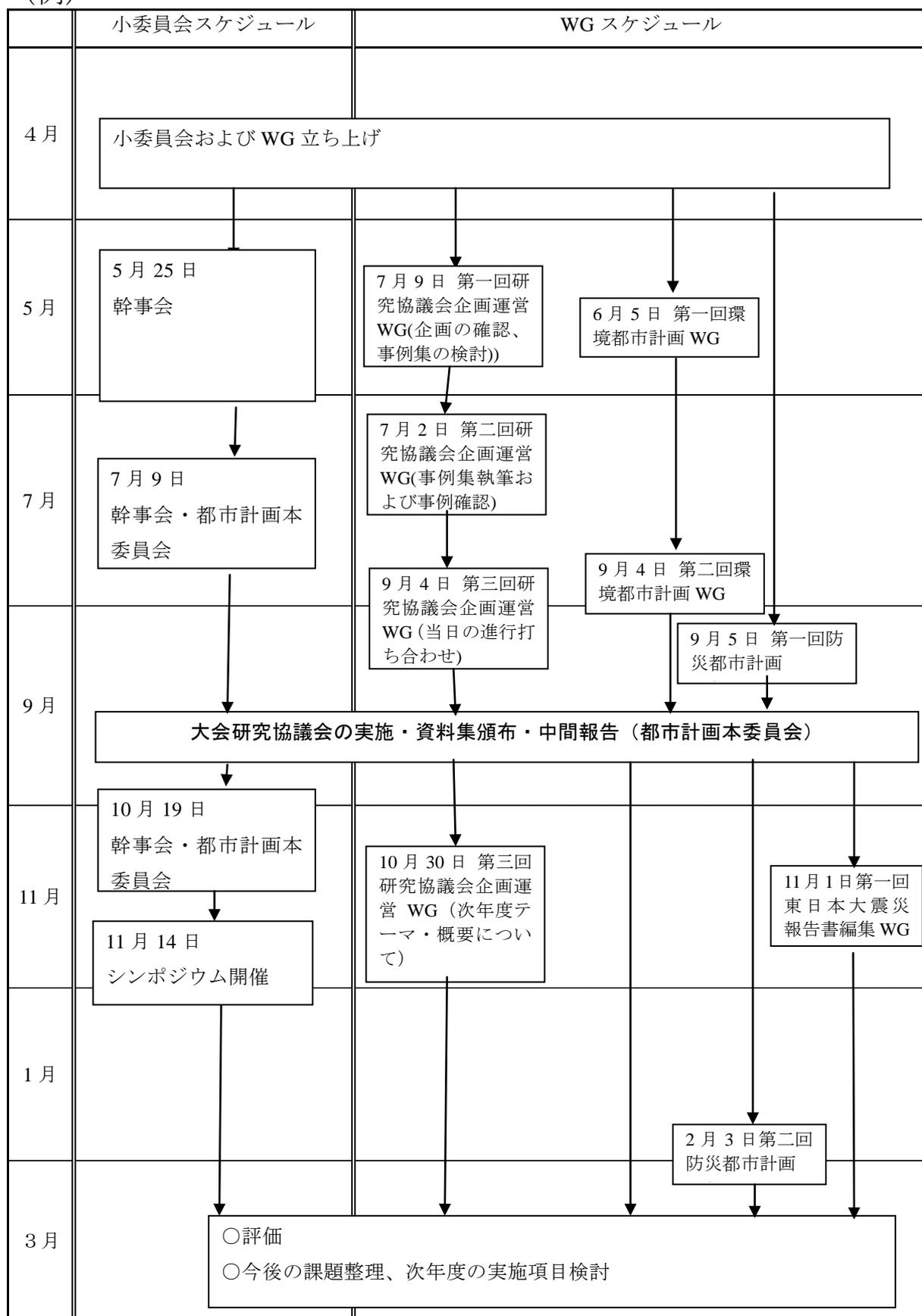
項 目	自 己 評 価
委員会開催数	回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 超高齢化社会における歴史都市の住生活まちづくり —市街地住宅と住環境整備のソフト・ハード— (資料名) 同上 参加者数 15 名
大会研究集会	1. 2015 年度大会都市計画部門研究協議会 「時空間的不確実性を包含する都市のプランニング」 (資料名) 同上
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大会研究協議会及び資料集作成頒布を通じた、都市計画委員会における新規研究テーマの提示、議論、及び新たな展開の萌芽構築に向けては、概ね達成できた。 2. また、次年度以降、都市計画委員会で大きなテーマとして検討すべき新たな研究テーマの発掘・構築に関しても、議論を始めることができた。 3. 活動の普及という観点からは、シンポジウムを地方都市で開催したことは非常に意義深かったが、出版活動等については、やや進捗が遅れており、課題が残る。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

2015 年度 小委員会活動計画

(例)



※必要に応じて適宜、行や欄を追加して下さい。

2015 年度 WG 活動計画および自己評価

(2016 年 1 月 10 日作成)

活動計画

WG 名	研究協議会企画運営 WG	主 査 名：姥浦 道生 就任年月：2015 年 4 月
所属小委員会	企画戦略小委員会	委員長名：有賀 隆 主 査 名：有賀 隆
設 置 期 間	2015 年 4 月～2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2015 年度大会（東海大学）都市計画部門研究協議会「時空間的不確実性と都市計画」に関して、論点整理、意見の集約、資料集作成を行い、充実した企画運営及びとなること ・ 企画戦略小委員会の今後の活動にもつながる動きとなること 	
WG 構成 (氏名 (所属))	委員公募の有無：無 姥浦 道生 (東北大学) 坂井 文 (北海道大学) 野原 卓 (横浜国立大学) 村山 顕人 (東京大学) 益尾 孝祐 (アルセッド建築研究所) 山村 崇 (早稲田大学) 三島 伸雄 (佐賀大学) 饗庭 伸 (首都大学東京)	

WG 活動自己評価

項 目	自己評価				
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	4 段階評価 ※2 A <input checked="" type="radio"/> B C D				
	9 月の大会に向けて、スケジュール的には、やや厳しいものではあったが、研究協議会の内容に関する議論、意見集約、資料集作成のための内容吟味、及び事例集の作成などを通して、研究協議会を充実したものとすることができた。				
	WG 開催数	当初予定	2 回	開催数	4 回
	WG 参加状況	1. 7 月 9 日	6 人	2. 8 月 18 日	6 人
		3. 9 月 4 日	6 人	4. 10 月 30 日	2 人
成果	WG の議論を通して、研究協議会の内容に関する議論・確認、主題解説の検討、寄稿論文の構成、充実した事例集の作成（対象事例の列挙・選定、解説の執筆）等を含めた、充実した資料集の作成を達成することができた。また、次年度以降のテーマへの発展的展開についても議論することができた。				
WG 活動の問題点・課題	特になし				

※ WG 活動計画および自己評価は本書式を基本とする。ただし、それぞれの WG において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

※2 A 評価：WG 設置目標に対し、80%以上の達成度、B 評価：WG 設置目標に対し、70%から 80%の達成度、C 評価：WG 設置目標に対し、60%から 70%の達成度、D 評価：WG 設置目標に対し、60%以下の達成

2015 年度 WG 活動計画および自己評価

(2016 年 1 月 8 日作成)

活動計画

WG 名	基幹的分野：都市防災 WG	主 査 名：市古 太郎 就任年月：2015 年 4 月
所属小委員会	企画戦略小委員会	委員長名：有賀 隆 主 査 名：有賀 隆
設 置 期 間	2015 年 4 月～2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	東日本大震災からの復興事業を検証しつつ、首都直下地震、南海トラフ地震といった巨大地震に対する建築学的視点からのリスク認知とシナリオ検討手法、事前復興の視点も含めた対応策について検討をおこなっていく。	
WG 構成 (氏名(所属))	委員公募の有無：有(名)・無	
	主査：市古太郎(首都大学東京)、幹事：竹谷修一(国総研) 岡田成幸(北海道大学)、牧紀男(京都大学)、加藤孝明(東京大学)、池田浩敬(富士常葉大学)、越山健治(関西大学)、廣井悠(名古屋大学)、佐藤慶一(専修大学)、紅谷昇平(神戸大学)、樋本圭祐(建築研究所)、山田悟史(早稲田大学)、澤田雅浩(長岡造形大学)	

WG 活動自己評価

項 目	自己評価	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	4段階評価※ ² A <input checked="" type="radio"/> B C D	
	建築学会災害委員会の取り組みも参照しつつ、都市計画視点からの災害初動調査のあり方について検討をおこなった。また4/25のネパールゴルカ地震の被害と調査に関する情報共有、東日本大震災5年の時点でのマクロな視点から復旧復興実態について公開方式で議論をおこなった。	
	WG 開催数	当初予定 3 回 開催数 2 回
	WG 参加状況	1. 9月5日 7人 2. 2月3日 20人(オブザーバー含む)
成果	都市計画分野において、災害委員会と連携しつつ初動調査をおこなう意味や貢献できる側面について一定の方向性が出された。また東日本大震災5年の実態を共有し、南海トラフなど巨大地震への事前復興対策についての方向性の議論を行うことができた。	
WG 活動の問題点・課題	東日本大震災合同調査報告書・都市計画委員会担当編集 WG との連携をさらに強めていきたい。執筆メンバーが本 WG メンバーと重なることもあるため。	

※ WG 活動計画および自己評価は本書式を基本とする。ただし、それぞれの WG において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

※² A 評価：WG 設置目標に対し、80%以上の達成度、B 評価：WG 設置目標に対し、70%から 80%の達成度、C 評価：WG 設置目標に対し、60%から 70%の達成度、D 評価：WG 設置目標に対し、60%以下の達成

2015 年度 WG 活動計画および自己評価

(2016 年 1 月 4 日作成)

活動計画

WG 名	環境都市計画 WG	主 査 名：川崎興太 就任年月：2015 年 4 月
所属小委員会	企画戦略小委員会	委員長名：有賀隆 主 査 名：有賀隆
設 置 期 間	2015 年 4 月～2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>【設置目的】 現在、環境面での持続可能性を高めることは、折からの低炭素社会の実現、省エネルギー化の推進、資源の循環利用・消費効率化に加えて、原子力政策の見直しに伴う再生可能エネルギーの普及促進という新たな社会的要請に鑑み、都市計画にかかわる最重要課題の一つとなっている。それぞれの地域が総合的な計画と戦略のもとで、都市政策・住宅政策・交通政策の統合的な展開によるコンパクトな都市構造の実現、再生可能エネルギーの積極的な活用による自立分散型エネルギーシステムの構築、さらにはエコツーリズムや環境教育などのソフト施策の充実などを含む「環境都市計画」を推進することが求められており、また、東日本大震災および福島原発事故の被災地では、復興まちづくりという文脈において、そうした環境都市計画を推進することが求められている。しかしながら、現行の都市計画関連法制度は、制度構造の面でも、制度運用の面でも、必ずしもこのような社会的要請に応えるものになっていないのが実情である。</p> <p>本ワーキンググループは、こうした現状認識のもとに、土地利用政策、交通政策、エネルギー政策などを含む総合的な観点から、東日本大震災および福島原発事故の被災地とともに、被災地以外の国内外の環境都市計画の実態と課題を把握することを通じて、都市計画関連法制度の再構築に資する知見を得るとともに、日本各地において環境都市計画を促進する上での知見を得ることを目的とするものである。</p> <p>【各年度活動計画】</p> <p>■2015 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の環境都市計画に関する事例の収集、政策・制度の構造分析や運用実態の把握などを行う。 ・全国大会時には、オーガナイズドセッションを開催する。 ・年度末に、1 年目の研究活動成果を発表するための場として、シンポジウムを開催する。 <p>■2016 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年目の研究活動の成果を踏まえつつ、日本の都市計画法関連制度の再構築に向けた研究活動を進める。 ・ワーキング・グループの研究成果の公開・社会還元の場として、公開研究会を開催する。 	
WG 構成 (氏名(所属))	委員公募の有無：有 (名) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 主査：川崎興太 (福島大学) 幹事：伊藤香織 (東京理科大学) 藤本典嗣 (福島大学) 委員：安藤尚一 (政策研究大学院大学) 海津ゆりえ (文教大学) 郭東潤 (千葉大学) 加藤宏承 (株式会社オリエンタルコンサルタンツ) 鏑木剛 (株式会社アスペン) 斎藤伊久太郎 (株式会社住環境計画研究所)	

WG活動自己評価

項目	自己評価	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	4段階評価※2 A B C D	
	<ul style="list-style-type: none"> 各委員の専門性を活かしつつ、国内外の環境都市計画に関する事例の収集、政策・制度の構造分析や運用実態の把握などを行うことができた。 全国大会時におけるオーガナイズドセッションにおいては、委員以外の発表者との研究交流が行われ、環境都市計画にかかわる有益な知見を得ることができた。 2月19日には、1年目の研究活動成果を発表するための場として、シンポジウム「東日本大震災・福島原発事故と環境都市計画」を開催する予定であり、2年度目において、テーマを絞った研究活動の展開が見込まれる。 	
	WG開催数	当初予定 3 回 開催数 3 回
	WG参加状況	1. 6月5日 9人 2. 9月4日 6人 3. 2月19日(予定) 9人
成果	<ul style="list-style-type: none"> 上述の通り、活動計画に即した研究を進めることができ、2016年度において、「東日本大震災・福島原発事故と環境都市計画」をテーマとして、WGの進めていくための研究の枠組みを構築することができた。 	
WG活動の問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> WGの初年度にあたる2015年度には、それぞれの委員が専門性を活かしつつ、環境都市計画に関する研究活動を進め、その成果を共有化してきたが、2016年度には、「東日本大震災・福島原発事故と環境都市計画」にテーマを絞り研究活動を進めていく予定である。 このため、2月19日に開催予定のシンポジウムでの研究発表内容、および、2016年度の活動計画を踏まえつつ、必要に応じて、メンバーを増強し、2017年度の環境都市計画小委員会の設置に向けて、本格的な研究体制を構築する必要がある。 	

※ WG活動計画および自己評価は本書式を基本とする。ただし、それぞれのWGにおいて活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

※2 A評価：WG設置目標に対し、80%以上の達成度、B評価：WG設置目標に対し、70%から80%の達成度、C評価：WG設置目標に対し、60%から70%の達成度、D評価：WG設置目標に対し、60%以下の達成

2015 年度 WG 活動計画および自己評価

(2016 年 1 月 10 日作成)

活動計画

WG 名	東日本大震災報告書編集 WG	主 査 名：加藤孝明 就任年月：2014 年 4 月
所属小委員会	企画戦略小委員会	委員長名：有賀 隆 主 査 名：有賀 隆
設 置 期 間	2015 年 4 月～2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	学会にて東日本大震災報告書の編集作業が進められている。都市計画分野は、2017 年 3 月公刊予定である。現在の WG では、目次案の骨格が固まったところであり、章担当者の選定、章担当者との執筆依頼に向けた検討などを行っている。来年度以降、公刊に向けた編集作業を本格化する必要があるため、WG 設置を申請した。都市計画本委員会と明示的な連携を図りながら編集する必要があるため、WG 設置は必須である。	
WG 構成 (氏名 (所属))	委員公募の有無：有 (名) ・〇無 主査 加藤孝明 (東京大学) 幹事 村尾修 (東北大学) 幹事 姥浦道生 (東北大学) 委員 北原啓司 (弘前大学) 委員 増田聡 (東北大学) 委員 川崎 興太 (福島大学)	

WG 活動自己評価

項 目	自己評価	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	4 段階評価 ※2 A ○B C D	
	目次構成を確定した。	
	WG 開催数	当初予定 回 開催数 回
	WG 参加状況	1. 11 月 1 日 2 人 + メール審議
成果	総集編の構成を議論した。	
WG 活動の問題点・課題	期日に間に合うよう対応する	

※ WG 活動計画および自己評価は本書式を基本とする。ただし、それぞれの WG において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

※2 A 評価：WG 設置目標に対し、80%以上の達成度、B 評価：WG 設置目標に対し、70%から 80%の達成度、C 評価：WG 設置目標に対し、60%から 70%の達成度、D 評価：WG 設置目標に対し、60%以下の達成